

宿泊約款

【適用範囲】

第1条 当館(ホテル)が宿泊者との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令または一般に確立された慣習によるものとします。

2. 当館(ホテル)が、法令および慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

【宿泊契約の申し込み】

第2条 当館(ホテル)に宿泊契約の申し込みをしようとする者は、次の事項を当館(ホテル)に申し出ていただきます。

- (1) 宿泊者名及び電話番号(又は携帯電話番号)
- (2) 宿泊日及び到着予定時刻
- (3) 宿泊料金(原則として別表第一の基本宿泊料による)
- (4) その他当館(ホテル)が必要と認める事項

2. 宿泊客が宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当館(ホテル)は、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申し込みがあったものとして処理します。

【宿泊契約の成立等】

第3条 宿泊契約は、当館(ホテル)が前条の申し込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当館(ホテル)が承諾しなかったことを証明したときは、この限りではありません。

2. 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間(3日を超えるとときは3日間)の基本宿泊料を限度として当館(ホテル)が定める申込金を、当館(ホテル)が指定する日までにお支払いいただきます。

3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条及び第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。

4. 第2項の申込金を同項の規定により当館(ホテル)が指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし、申込金の支払期日を指定するに当たり、当館(ホテル)がその旨を宿泊客に告知した場合に限りです。

【申込金の支払いを要しないこととする特約】

第4条 前条第2項の規定にかかわらず、当館(ホテル)は、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。

2. 宿泊契約の申し込みを承諾するに当たり、当館(ホテル)が前条第2項の申込金の支払を求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

【宿泊契約締結の拒否】

第5条 当館(ホテル)は、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。

- (1) 宿泊の申し込みが、この約款によらないとき
- (2) 満室(員)により客室の余裕がないとき
- (3) 宿泊しようとするものが、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき
- (4) 宿泊しようとする者が、次のイからハに該当すると認められるとき
 - イ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団(以下「暴力団」という)、同条第2条第6号に規定する暴力団員(以下「暴力団員」という)、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力
 - ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
 - ハ 法人でその役員のうちに暴力団員に該当する者があるもの
- (5) 宿泊しようとするものが泥酔者等で、ほかの宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき
- (6) 宿泊しようとするものが、伝染病者であると明らかに認められるとき
- (7) 宿泊に関し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき

(8) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき

(9) 千葉県旅館業施行条例第1条～第17条の規定する場合に該当するとき

【宿泊客の契約解除権】

第6条 宿泊客は、当館(ホテル)に申し出て、宿泊契約を解除することができます。

2. 当館(ホテル)は、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合(第3条第2項の規定により当館(ホテル)が申込金の支払期日を指定してその支払を求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます。))は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当館(ホテル)が宿泊客に告知したときに限りです。

3. 当館(ホテル)は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後8時(あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻)になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

【当館(ホテル)の契約解除権】

第7条 当館(ホテル)は、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。

(1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行をしたと認められるとき

(2) 宿泊客が次のイからハに該当すると認められるとき。

- イ 暴力団、暴力団員、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力
- ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
- ハ 法人でその役員のうちに暴力団員に該当するものがあるとき

(3) 宿泊客が他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき

(4) 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められるとき

(5) 宿泊に関し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき

(6) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき

(7) 千葉県旅館業法施行条例第1条～第17条の規定する場合に該当するとき

(8) 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当館(ホテル)が定める利用規則の禁止事項(火災予防上必要なものに限る。)に従わないとき。

2. 当館(ホテル)が前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がいまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

【宿泊の登録】

第8条 宿泊客は宿泊日当日、当館(ホテル)のフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。

- (1) 宿泊客の氏名・年齢・性別・住所および職業
- (2) 外国人にあつては、国籍・旅券番号・入国地及び入国年月日
- (3) 出発日及び出発予定時刻
- (4) その他当館(ホテル)が必要と認める事項

2. 宿泊客が第12条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

【客室の使用時間】

- 第9条 宿泊客が当館(ホテル)の客室を使用できる時間は、館内サービスのご案内「チェックアウト」をご覧ください。ただし、連続して宿泊する場合には、到着日および出発日を除き終日使用することができます。
2. 当館(ホテル)は、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には、追加料金を申し受けます。

【利用規則の遵守】

- 第10条 宿泊客は、当館(ホテル)内においては、当館(ホテル)が定めて館内(ホテル)に提示した利用規則に従っていただきます。

【営業時間】

- 第11条 当ホテルの主な施設等の営業時間は備え付けパンフレット、各所の掲示、客室内インフォメーション等のご案内いたします。
2. 営業時間は必要やむを得ない場合には、臨時に変更する場合があります。その場合は適当な方法をもってお知らせいたします。

【料金の支払い】

- 第12条 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳およびその算定方法は、別紙に掲げるところによります。
2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当館(ホテル)が認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等これに代わり得る方法により、宿泊客の出発の際又は当館(ホテル)が請求したとき、フロントにおいて行っていただきます。
3. 当館(ホテル)が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

【当館(ホテル)の責任】

- 第13条 当館(ホテル)は、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、またはそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当館(ホテル)の責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。
2. 当館(ホテル)は、万一の火災等に対処するため、旅館賠償責任保険に加入しております。

【契約した客室の提供ができないときの取り扱い】

- 第14条 当館(ホテル)は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。
2. 当館(ホテル)は前項の規定にかかわらず他の宿泊施設の斡旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当館(ホテル)の責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

【寄託物等の取扱い】

- 第15条 宿泊客がフロントにお預けになった物品について、滅失、毀損等が生じたときは、それが不可抗力である場合を除き、当館(ホテル)は、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の申告がなかったものについては、当館(ホテル)に故意または重大な過失がある場合を除き、10万円を限度としてその損害を賠償します。
2. 宿泊客が当館(ホテル)内にお持ち込みになった物品または現金並びに貴重品をフロントにお預けにならなかったものについて、当館(ホテル)の故意または過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当館(ホテル)はその損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の申告のなかったものについては、当館(ホテル)に故意又は重大な過失がある場合を除き3万円を限度としてその損害を賠償します。

【宿泊客の手荷物または携帯品の保管】

- 第16条 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当館(ホテル)に到着した場合は、その到着前に当館(ホテル)が了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際お渡します。
2. 宿泊客がチェックアウトしたのち、手荷物または携帯品が当館(ホテル)に置き忘れられている場合において、当館(ホテル)は原則として所有者からの照会の連絡を待ちその指示を求めます。所有者の指示がない場合は、貴重品については発見日を含め7日以内に最寄の警察署に届け、その他の物品については3か月経過後処分いたします。ただし、飲食物・たばこ・雑誌等は即日処分します。
3. 前2項の場合における宿泊客の手荷物または携帯品の保管についての当館(ホテル)の責任は、第1項の場合にあっては前条1項の規定に、第2項の場合にあっては前条第2項の規定に準じるものとします。

【駐車場の責任】

- 第17条 宿泊客が当館(ホテル)の駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当館(ホテル)は場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理にあたり、当館(ホテル)の故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

【宿泊客の責任】

- 第18条 宿泊客の故意又は過失により当館(ホテル)が損害を被ったときは、当該宿泊客は当館(ホテル)に対し、その損害を賠償していただきます。

【キャンセル規定】

- 第19条 キャンセル料金は以下の通りになります。
- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1人当たりの料金(ルームチャージはルーム当たり) | |
| 7日～2日前 | 宿泊料金の20% |
| 1日前 | 宿泊料金の50% |
| 当日 | 宿泊料金の100% |

※ 宿泊約款についての不明な点、または本文中の別紙の内容については、フロントにてご確認ください。